

# 脳血管疾患等リハビリテーション

(脳血管疾患等リハビリテーション I 認定施設)

## 脳血管疾患等リハビリテーションの対象疾患

主に脳卒中の患者さまを対象にリハビリテーションを行っています。脳卒中は大きく3つに分けられます。

脳出血	血管が破れて出血する
くも膜下出血	血管にこぶが出来て破裂し脳全体に出血する
脳梗塞	血管が詰まりそこから先に栄養がいかないため脳の組織が壊れる

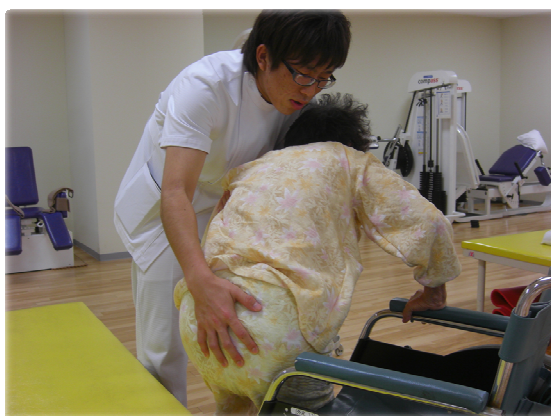
## 当院におけるリハビリテーションの取り組み

寝たきりになる一番の原因は脳卒中です。そのため、寝たきを予防するためにも早期からのリハビリテーションが必要とされています。脳卒中のリハビリテーションは発症からの時期により、3つに分けられます。

- ①急性期リハビリテーション
- ②回復期リハビリテーション
- ③維持期リハビリテーション

当院では①急性期リハビリテーションの役割を担っており、主治医の指示のもと発症後早期より、失われた機能の回復・廃用（はいよう）症候群の予防を目的にリハビリテーションを行っています。

廃用症候群とは、安静状態が長期に続くことによって起こる心身の様々な低下を指します。具体的には筋力が落ちたり、関節が硬くなったり、起き上がろうとする意欲がなくなったりします。これらは高齢者でとくに起こりやすいのですが、脳卒中の方の場合麻痺した手足だけでなく、健常側の手足にも衰えがおよびます。そのため可能な限り早期からリハビリテーションを行うことが必要です。当院では集中治療室に入室している方でも主治医の指示に応じてリハビリテーションを開始します。



一般病棟の場合、ベッドサイドにて寝返り・起き上がり等の練習を開始し、リハビリテーション室での訓練へと移行していきます。患者さまの症状に合わせてリハビリテーションプログラムを立案・実施し、より良く、より早く患者さまの機能が回復するように努めています。しかし、失われた機能の回復には長期のリハビリテーションを必要とすることもあります。回復期リハビリテーションを必要とされる方には主治医・看護師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士でカンファレンスを行い、地域の回復期リハビリテーション病院をご紹介します。